

幼児の造形活動と小学校図画工作科の内容分析 — 文部科学省検定済教科書に見る幼児課題との同一性と教育内容の変遷 —

松下 明生

1. はじめに

幼稚園や保育所では保育内容の中でも造形的な活動は大きな部分を占める。平成20年告示の幼稚園教育要領および同年告示の保育所保育指針では教育に関わるねらい及び内容の「表現」にあたる領域に、過去には「絵画製作」という領域があったが、過去のものになって久しい。

保育や教育の内容は時代とともに進化して変わっていくこともあるが、時代を超えても変わらない普遍的な部分も存在するのではないだろうか。表現領域の中でも造形的な部分は特に人間の根源的な営みに通ずるものであり、数年単位で変更していくものではないと信じている。ならばこの数十年での子どもの造形活動に関する事案はどうなのか疑問を持つようになった。

また、幼稚園・保育所から行っている造形的活動と小学校入学後のそれとでは学ぶ内容や活動はどのようになっているのだろうか。図画工作科の実技内容から分析し、教育内容について検証することを本稿の目的とする。保育者・教育者の行う保育・教育の現場ではどのような活動が行われているのだろうか、そして幼児が卒園して小学校入学後に成長に合った図画工作科としてどのような学習内容になっているのかを文部科学省検定済教科書や幼児の活動に関する参考図書から分析することにした。

幼稚園と小学校の接続に関する部分では「低学年で行われる造形あそびにおける子どもの造形活動の姿は、幼稚園で行われる遊びの中での子どもの造形活動と表面上は極めてよく似ている。」と栗山ら(2006)は述べている。また「幼児期と小学校期の教育には隔たりがある。つまり本来、5歳頃(幼児期)から8歳頃(小学校低学年・児童期)あたりまで一貫した発達の流れがあるにもかかわらず、そこに制度的な一線が引かれ、それに伴って教育の内容や方法が幼児期と小学校低学年期においてスムーズに引き継がれていないことが

問題になっている。」とも述べているが、はたして幼児期と児童期との内容自体はどのようになっているのだろうか調べてみることにする。

2. 研究の方法

文部科学省検定済(平成26年2月24日)の教科書の中から概ね10歳児である図画工作3・4上(N出版)に掲載されているすべての課題・演目について、幼児期に行う類似課題・演目と比較検証する。幼児期の保育・教育については小学校での教科とはちがい、認定の教科書は存在しないので各出版社の参考図書を調査引用することにした。

また現役の幼稚園教諭・保育者の造形活動に関する意識調査及び活動内容の実態調査を行った。(有効回答数150人)併せて現役小学校教諭(有効回答数15人)のアンケートを分析し実態を把握する。

【アンケートは浜松私立幼稚園協会主催夏季研修会(平成26年8月19日)、浜松市こども館主催の現役保育者向けの夏季講習会(平成26年8月25日)と松阪市小中学校教員教科研究会(平成27年8月19日)に行い、参加者から得た有効回答を集計分析】

現行平成27年度)の幼稚園教育要領や保育所保育指針の下で行われている教育や保育の内容と、数十年前の活動内容では何が違うのかを教科書掲載作品から読み取り分析することで、これまで見えなかった美術や造形教育の問題を提起する。

3. 児童期と幼児期の教科書及び参考図書

- ・小学(児童期)の検定済教科書
- ・幼児期の参考書籍名は末字()内の文字にて表すことにする。(すべて幼児向け専門参考図書)
「製作・造形なんでも大百科」(株式会社ユーキャン2012初版)・・・・・・・・・・・・・・・・(a)
「絵画・製作・造形あそび指導百科」(ひかりのくに株式会社2005初版)・・・・・・・・・・・・・・・・(b)

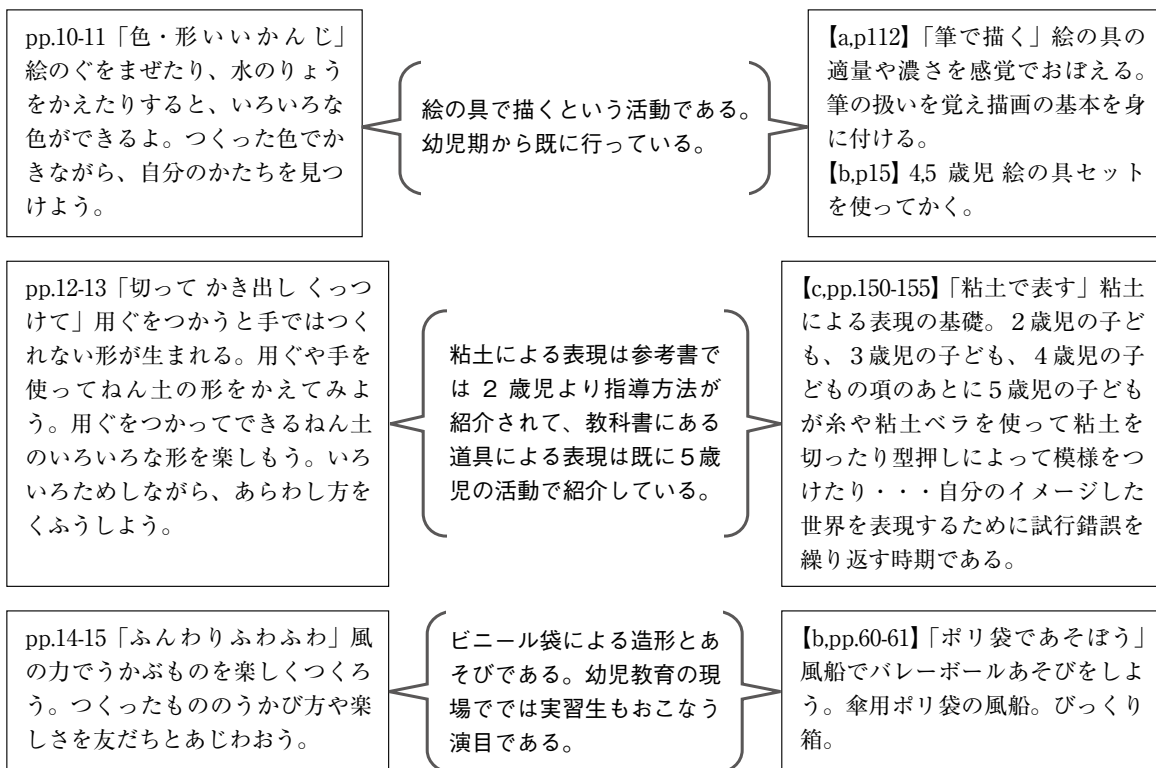
- 「幼児造形の研究」(萌文書林2014初版)・・・(c)
- 「3.4.5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ」(ひかりのくに株式会社2011初版)・・・(d)
- 「絵画あそび技法百科」(ひかりのくに株式会社2001初版)・・・(e)
- 「幼児教育法シリーズ絵画製作・造形実技編」(東京書籍1986初版)・・・(f)
- 「3・4歳児の絵画製作」(ひかりのくに株式会社1980初版)・・・(g)
- 「5歳児の絵画製作」(ひかりのくに株式会社1986初版)・・・(h)
- 「ピアジェの幼児教育シリーズ5表現あそび」(明治図書1978初版)・・・(i)
- 「保育をひらく造形表現」(萌文書林2008初版)(j)
- 「感性と表現 造形あそびの中で豊かに育つ」(学研1993初版)・・・(k)
- 「ねんどあそび」(株式会社サクラクレパス 1980

初版)・・・(1)

4. 児童期と幼児期の造形活動の内容及び演目の比較

下記は小学校教科書に掲載されている演目(左に記載)と幼稚園や保育所で既に行っているもの(右に記載)で同一内容もしくは同一課題の掲載頁を記載して左右に並列し、中央はそれらと比較し幼児期において製作可能であるのか、またはすでに行っているものかを記述した。幼児期において実施可能な演目であるかどうかは、幼児期向けの参考図書に記載されていることをもって幼児の活動可能という判断にした。今回調査した小学校教科書で取り扱われている演目のほとんどが幼児でも実施可能であり既に幼稚園で経験されているということがわかるのでご覧いただきたい。

「児童期 教科書(小学校3年生)」・「幼児期に行っているか比較検証」・・・「幼児期 参考図書」



pp.16-17 「立ち上がった絵の世界」絵を立ち上げてあらかわすことを楽しもう。

立ち上げた紙に描画を行う行為である。紙工作の基礎的な課題で、紙立体に自らの感覚で着色する演目であり幼児期から可能で、ポップアップは目的がはっきりしている。

【d,pp.68-69】「ポップアップカードを作ろう。」

pp.18-19 「カラフルフレンド」とう明なふくろに色とりどりの紙を入れると、ふわふわでカラフルな形になるね。ふくろを組み合わせてどんな楽しい友だちをつくりか考えよう。

様々なビニール袋にカラフルな様々なモチーフを入れて、飾ったり飛ばしたりといろいろな活動は幼児期から行っている。

【a,pp.58】「かさ袋のリース」ビニール袋にカラフルな様々な素材を入れて楽しみながら作品を作る課題。

pp.20-21 「うれしかったあの気持ち」心にのこったことを、楽しみながらかこう。その時の気持ちがあられるようにくふうしよう。

具体的に何を描くのかというテーマ性よりも気持ちを絵にあらかわすことを軸にしている現在の指導方法に比べて、以前は実際の体験を重視して描くことも大切な要素であった。いずれにしても体験画は幼児期から行っている。

【d,pp.88-89】「きれいなお花が咲いたよ」自分なりに工夫して描いたり、のびのび成長する草花をテーマに春を待ち望む気持ちを描きます。
【h,pp.41-60】「かく 生活の絵」虫取り・一生懸命描き上げた作品は虫取りの楽しさが表現されたものになりました。雪遊び・楽しかったことを話し合うことで自分の経験したことがはっきりするようになった。

pp.22-23 「切ってつないで大へんしん」いろいろな形の紙の組み合わせ方やくふうをするとどんなうごきをするかな。どんな楽しい形にへんしんするかな。

様々な紙などを切っつけてつけて貼ったりしてあそぶ。平面から空間までおこなうことも幼児・児童とも行い、美術ワークとしては現代美術に通じている。

【b,49】動物の顔のリュックサック
【e,pp.74-79】「素材を生かして」新聞紙で思い切り遊んだあとで。和紙の特徴を生かして。グラビア・模様紙・・・。

pp.24-25 「これにえがいたら」ざらざら、でこぼこ、しわしわ。いつもとちがうざいりょうにかいてみよう。どんなかんじがするかな。

まさしく幼児の描画あそびに行なわれる演目であり、園によっては様々な取り組みが実施されている。

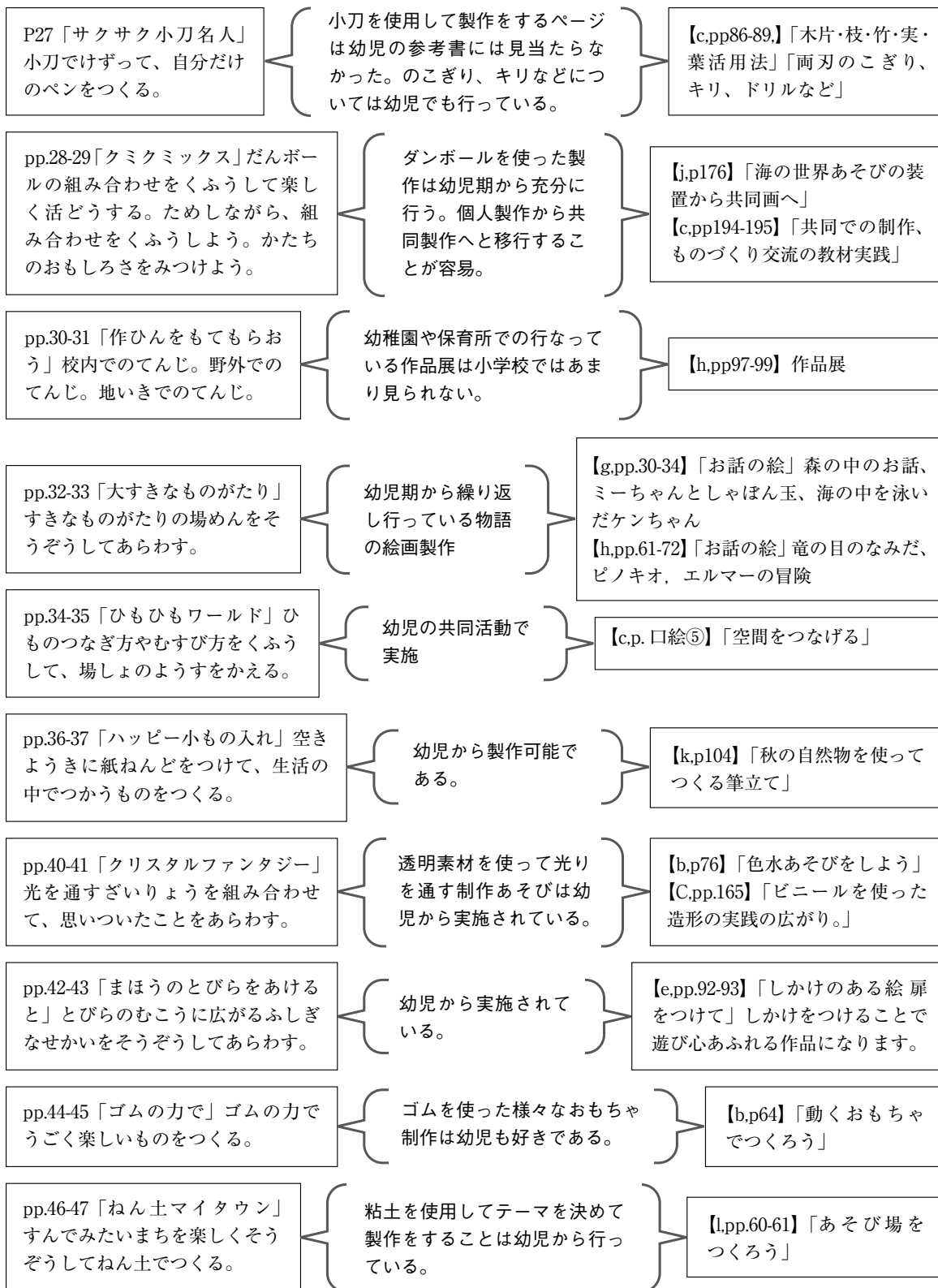
【b,pp.8-9】「いろんなものにかいてみよう！」(3~5歳児)しわくちャのクラフト紙に恐竜をかこう。大きな布に海の中をかこう。ダンボール箱にかこう。透明のビニールシートにかこう。ティッシュペーパーをはりつけた下地にかこう。

p26 「トントンドンくぎうち名人」金づちで木にくぎをどんどんうっていかう。木にくぎをうつことを楽しもう。くぎによって生まれる形のおもしろさかんじよう。

幼児でも充分に行い楽しめる演目である。ここでは幼児向け参考書のほうがはるかに難易度が高い。

【i,p.59】「木片を楽しむ」釘打ち+毛糸、糸鋸
【f,pp.85-86】「釘打ちあそび、木片をつないで、釘打ち木片あそびの経験が土台になって始めから「ふね」をつくることにする。

幼児の造形活動と小学校図画工作科の内容分析



pp.48-49 「いろいろうつして」はんの形やざいりょう、うつし方をくふうしてあわす。

版画系の造形あそびは幼児の平面表現では多くの技法があり、教科書の演目は充分実施可能。

【c.pp.140-147】「版で表す 紙版画」「スタンプ遊びの実践 野菜、芯材、空き容器」「ステンシル、ローラー遊び」

教科書（図画工作 3・4上）の全ページを俯瞰しても幼児教育の中でほとんどの演目が実施されていて3年生の教科書に掲載されている実技内容は幼児期でも十分に実施可能であることがわかる。幼児教育の教科書は小学校や中学校のように存在しないので、保育者は参考図書の演目を実施することが多い。

幼児の活動では国語や算数、理科や社会、道徳などの教科目は存在しないことは周知の事実である。つまり幼児期の活動種目は児童期と比べて少ない種類の活動であることから、必然的に造形的活動に費やす時間は小学校時期よりも多くを充てていることも自明である。沢山の造形的体験を経験した幼児は小学校に入学して図画工作科として行う少ない時間数での学びに対してどのように感じているのであろうか。これらのことから総合的に推察して、小学校での造形的学びは既に幼稚園で経験していると理解することができる。幼児向けの造形に関する参考図書を見れば小学校教員は学ぶことが少なくないし、より一層子どもの姿が理解できるのではないだろうか。これらの事実については保育者や小学校教員は知らないと思われる。主要な科目である国語や算数と言った知的な学習のように積み重ねて学習され学年が上がっていく知的教科目とは一線を引くという認識である可能性は高い。栗山らは「幼稚園教諭の図画工作科への、小学校教諭の環境を通して行う幼児教育への、双方の理解が深まっているかどうかは疑問がのこる。」と述べていることはここでも明らかである。

5. 保育者及び教員、学生の実態意識調査

質問①「現在の勤務園・校では絵画と工作との配分はおおよそどれくらいですか？」

- ・年少担任 (58人)・年中担任 (48人)
- ・年長担任 (44人)・小学校担任 (15人)

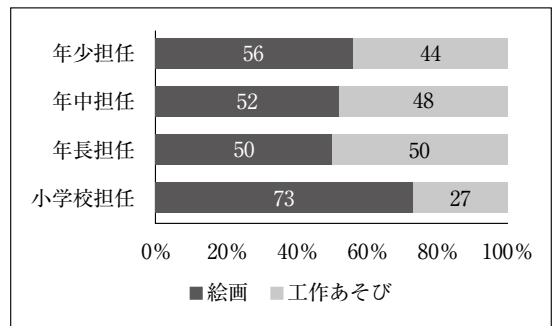


図 1 各学年による絵画と工作（あそび）の割合

幼児期では概ね「絵画:工作（あそび）= 1:1」という結果になった。保育者個人による差異が大きく絵画的活動が8割の人もいれば2割の保育者もいる。年少期と年長期とは大きな差はないが若干工作系の活動に広がりが見られるようだ。このグラフからわかることは幼児期と児童期の違いが歴然であり、小学校に入学すると絵画的な図画の授業が増えていることが分かった。

質問②1学期に描いた絵画作品は、内わけとしてどのようなものでしたか？

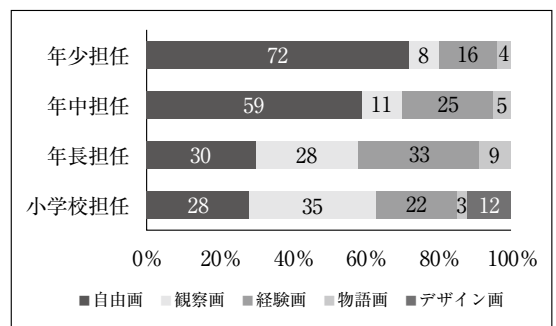


図 2 各学年による絵画活動の内容比率

幼児期には自由に絵を描く自由画が多い。子どもの思うままに何を描いても良い絵画製作のこ

とである。

この自由画については年少期から年長期へ成長するにつれて、あてられる時間比率が下がっている。子どもの何かを描く能力に成長があって、保育者はテーマを設定して何かを描くという活動を増やしていることがわかる。

児童期の特徴はデザイン画というポスターなどのようなカテゴリーが増えていることと、それぞれの内わけはバランス良く実施されているということである。顕著な違いは児童期には観察画といういわゆる写生等のような実際の物を見て描くという活動のことを指している、子どもの発達段階という写実期になっているからでもある。

質問③「絵画制作で困っていることや、悩んでいることはありますか？」

【年少担任の回答】

- ・題材を思いつかず悩むことが多い。
- ・導入をどのように行うか結局いつも絵本から導入することになりワンパターンになってしまう。
- ・個人差があり題材・描き方に悩む。
- ・つい子どもの気もち思いより、良い作品作りをしようとしてしまう。
- ・苦手な子どもへの対応。
- ・子どもたちに色々な経験をさせてあげたいが、まだまだ知識が少なく悩んでしまう。
- ・少ししか描かない子どもには強要してしまう。
- ・なかなか絵が描き進められない子や恥ずかしがっている子への対応。
- ・お母さんの絵やお父さんの絵など課題があると「かけない」と泣く子がいてどうすれば良いかわからない。
- ・毎年毎年同じような画材・スタイルになりがち。
- ・顔を描くことができない子がいるとどのように指導すべきか。
- ・差があり全体で進めるのが難しいときがある。
- ・子どもたちに色の概念を教えて良いのか、まだ自由に描かせてあげたほうが良いのか悩む時がある。
- ・イメージがわからない子に対してどう伝えるのか。
- ・自由画を指導する際、自分は描く事が得意ではないので方法が難しい。
- ・自分が上手ではないので制作の説明が難しい。
- ・自分自身が絵画が苦手な子どもで子どもの前で見本を見せるときに、どう見本を描いたら良いか悩む。
- ・やりたくないという子がいる。
- ・早く完成したいから雑になってしまう子や、丁寧にやりすぎて時間がすごくかかる子への声掛け。
- ・お手本を描くと、その通りにしか描かない子がいる。
- ・制作、絵画が苦手な子がどうしたら好きになってくれるのか。
- ・まっしろな状態でどう描くか悩んでいる子に対してどう教えたらいいか。
- ・描き出しが遅い子がいる。泣いてしまう。
- ・横の子をマネして描くのをいつまで良しにしておくのか。
- ・色の指定はあった方がいい場合もあるのか。
- ・人の顔の絵を描く時、目を緑や赤で描いたり、全く反対の色を使った時の対応の仕方。
- ・子どもの手本として描く時、しっかり表現して子どもの参考になるように描けるか心配。
- ・満3歳児への教え方が分からなかった。
- ・難しく描けない、つまらない・・・等とやる前から言う子どもに対して・・・。
- ・絵画に対して苦手意識を持っている子が多くその子どもに対しての対応について。
- ・どこまで援助すべきか。
- ・時間をどのくらいまで取るのか。

【年中担任の回答】

- ・描き始めが遅い子への対応。
- ・すでに苦手意識がついている子への対応。
- ・経験の差が大きいこと。
- ・自分自身が苦手。見本を上手く描けない。
- ・保育者の絵を真似して描く子への対応。
- ・描く手がすぐに止まってしまう子がいる。すぐ「もうこれでいい」など、ぜんぜん描けない子への対応。
- ・どこまで個別に指導したら良いのか疑問で

す。

- ・絵に興味のない子は画用紙渡しても、5分くらい描くともう終わり！となってしまう。
- ・材料の正しい使い方がはっきりわからず困る。
- ・子どもたちへの絵画の教え方。
- ・頭足人のままの子がいること。
- ・テーマを何にしようか悩んだりしています。自分が絵が苦手なのでアドバイスができない。
- ・自分が絵が苦手なので自信がない。
- ・飽きた子への対応。

【年長担任の回答】

- ・どのように導入していくか。
- ・形にあらわすことができるようにする難しさ。
- ・絵を描けない子が多い。
- ・友だちをまねて良いのか、進めていいのか。
- ・描き出せない子にたいしての指導助言。
- ・「うまく描けない」「ダメ」と言ってしまう子に対するの援助方法。
- ・画用紙の大きさに合った絵が描けない。
- ・苦手意識が先に立ち、描けない子の指導。
- ・家庭での経験の差があり、活動時間にも差がある。
- ・園の方針と自分のやり方が違う。
- ・クレパスや絵の具を使うことが多いので他の材料も工夫して使いたい。
- ・何を描いて良いか分からない子の声掛け。
- ・クラス全員 (30人) 一斉に描くことが多いのですが、楽しんで描ける子、なかなか描き出せない子一人一人への配慮が難しい。
- ・毎年一緒になってしまいがち。新しい発想欲しい。
- ・自分が絵が苦手で見本を上手く描けない。
- ・子どもたちへの指導方法。難しいです。
- ・行事の練習等が多く、ゆっくり絵画製作の時間をつくってあげられない。
- ・なかなか描き始められない子、人の真似をする子。
- ・個人差で描き終えるまでの時間に大きな差が出る。
- ・題材が自由なので毎回何を描こうか迷ってしまう。
- ・題材や材料の工夫の仕方。

- ・自分自身が上手でないため、絵画で見本を描くときにどのように伝えて良いかなど。
- ・月に5枚は絵を描いていますが、年齢にあったテーマはどういうものか教えて欲しい。

【小学校・中学校担当の回答】

- ・絵の具の使い方。
- ・下描きの後の色ぬりの指導方法。
- ・基本3原色+白色で色を作らせているが暗い色ばかりぬる子がいる。
- ・苦手な子がなかなか描き始められない。
- ・細かな部分の色ぬりにおいて、おおざっぱな児童が多い。
- ・写生や経験画、人物の手足 (動作している) をどう楽しく描かせるか。
- ・子どもの発達を活かすこと、実技指導のバランスの取り方。
- ・自分の引き出しがワンパターン化しているのていろんな題材を勉強してみたいです。
- ・制作スピードの調整。行事等の多い中で限られた時間内に制作を終えたいがなかなか終わらずプラスαの時間をとってしまう。
- ・題材選び。専門的知識がないため、指導方法や声のかけ方で悩む。
- ・子どもの制作の喜びと満足感を味わってもらう課題や指導。個性や様々な表現の認め合い。
- ・授業時数が少なく課題が限られてくること。
- ・共同製作をした場合、描く子と描かない子がいる。

絵画指導で困っていることの内容を比較しても年少児担当者の回答と小学中学担当の回答とでも類似の内容が少なくない。共通の悩みについてはまず「教員自身が苦手であることで不安になっていること。」と「絵画の指導の仕方がわからない。」ということにつくる。次に「なかなか描き出せない子、苦手意識を持っている子への声掛けや指導方法についての悩み。」を持っている教員が多い。

これまでの検証では、幼児期の造形活動の内容と児童期のそれでは、既に幼児期にほとんどの実技課題を体験している子どもが小学校へ入学して類似の活動を行っていることが分かったのだが、この教員向けのアンケート回答を比較検討しても

教員の意識として絵画活動へ向けて困っていることについても変わらないという事が分かった。

6. 教科書及び参考図書の掲載作品から

それではここで、教科書に掲載されている子どもの描いた作品から考察を深めていきたい。まずは現行の教科書から見てみよう。描くという行為による作品の比較なので立体的な造形作品やあそびという活動ではなく、具体的に描くという行為によって制作されたものの中から最も具象的な作品を選抜してここに挙げる。



写真1 「図画工作3・4上表紙」・写真2 同左 (p20)

写真1と2は現行のN出版社の表紙(左)と最も具体性のある作品の載った頁(右)である。教科書に掲載されているこれらの作品の表現は概ね3年生にとって制作の模範表現になるから載っている訳であり秀作見本である。これらの作品を他の出版社及び他の使用年度のものとは比べて見てみることにする。



写真3 「図画工作3・4上表紙」 写真4 「図画工作3 表紙」

写真3は現行のK出版社の教科書表紙である。現行出版社による2社の教科書表紙は人物の表現方法(技法)が類似している。特に両社の表紙にある人物表現は正面の輪郭、目、口などの部分描写に至っては概念的でそれぞれの表情も笑顔が同じで図式的な表現となっている。よってこれらは同程度の発達・成長の様子をうかがい知ることができる。写真4は描画されたアングルに特異な表現力を感じることに、人物の顔の表現でもこちらの(写真4)ほうが自然で卓越した描画力の成長の跡を見て取れる。写真4は昭和58年度用の教科書表紙である。顔の前後に植物が描かれていて遠近も感じる表現で小学校3年生の作品としては最近の教科書にはこのように秀でた表現作品は見ることがない。

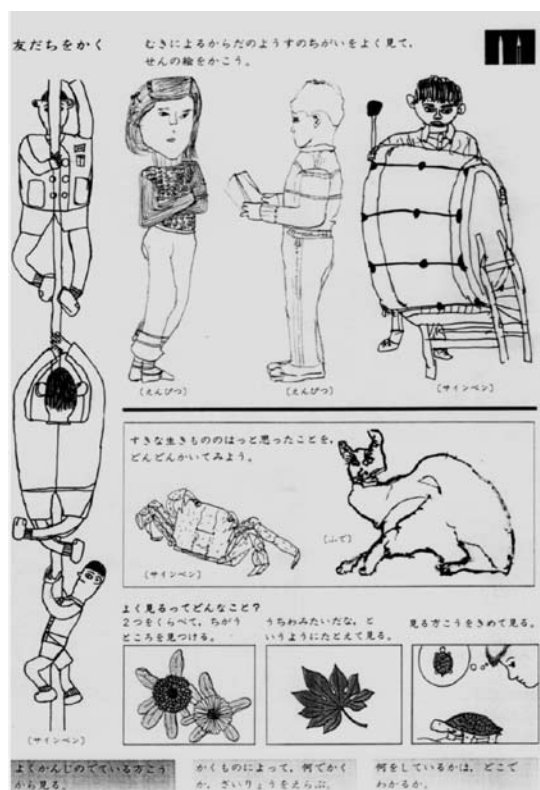


写真5 「図画工作3 p8」

写真5は昭和58年度用の3年生教科書であるが、現行の教科書には全く見ることでできない「よく見る」や「よく見るってどんなこと?」と表記されていて、見ることと絵を描くことを結び付けて

指導することになっている。掲載された作品群は具体性に富み、描き方の詳細にまで言及されている。

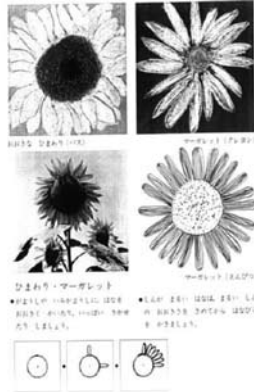


写真6「しんずがこうさく表紙」 写真7「しんずがこうさく p10」

写真6と7は昭和55年度の1年生の同教科書である。ひまわりの花の描き方を、順番にどのように描いたら良いのかの手順を絵によっても説明



写真8「表現あそび p45」

表記されている。現在では、このような描き方を示す図画工作科の教科書はどこにもない。あるとすれば図画工作ではなく生活科にその目的や教育の方法を委ねていると理解することが自然である。

写真8は昭和53年発行の幼児教育の参考図書に掲載されている幼稚園年少向け課題の作品である。「いもほり」に行ったことを思い出して表現した作品群である。人物の表現を小学校教科書と比較してみよう。写真1では描画は顔のみで比較しづらいが写真2の表現では同程度かもしくは写真8のほうが良く観察されていて、特徴を良く思い出して描かれている部分が多い。また写真3は明らかに表現が幼く、人物に限って比較してみても写真8の表現の方がより一層成長を感じる。この比較により写真3は幼稚園の年長児と解されても仕方がない程度である。写真5に描かれている人物は、写真8の人物表現に比べて明らかに巧みで同時代の幼児が写真8であれば写真5の表現は小学校中学年の作品として納得のいくものである。

これらの作品の比較から見えてくるものは、昭和55年時期の小学生の描く描画作品と現在（平成27年）の小学3年生では明らかに昭和55年時期の頃の描く作品のほうが具体性に富み、実際の事物を忠実に描かれていることが判明した。言い換えれば、昭和55年時期よりも現在の小学生は描く作品に具体性を持たせない教育になっていることが分かる。

一見してどちらが描く力があるのか作品群のみで比較すると現在の児童は、昭和55年時期よりも、描く力を伸ばす教育を受けていないことが明らかである。

写真8は幼児向けの参考図書である。先述しているが保育所や幼稚園・子ども園では文部科学省の検定済教科書等は存在しない。そこにあるのは、各出版社の幼児の指導者用参考図書に頼るしかないのだ。その中の参考図書の1冊に掲載されていたのがこの写真8の作品である。写真8の掲載作品と他の作品を比較してみると、現行の小学校3年生の各教科書に載っている作品との比較ではどちらの作品が年上の子が描いたのか全くわからない。つまりここでわかることは、昭和53年時

期の幼児の描いた参考作品と現行の小学3・4年生の描いた参考作品が同程度の描画能力ということになってしまう。一概に描画能力という言葉で判断することは危険であることは周知であるものの、項目を決めて例えば「人物の顔の表現・動き・向き」「登場する事物の具体性」というふうにして得点化すれば、容易にそして確実にその作品群の程度がわかる。「図画工作」「美術」といった科目は教師により得点化されて成績となり通信簿にて、自分のそして自分の子どもの評価を知る。果たして現代の教師が子どもの描いた作品を採点するとして、本研究に提示した昭和55年時期の作品と現在の子どもの作品を同時に並列して採点するとどういった判断をされるのか新たな興味の範疇である。

7. 検証による事実確認

教科書による掲載作品の分析を行うことで様々なことが見えてきた。今研究では、現在使用されているものと過去にさかのぼって俯瞰することができた。そこでわかったことは以下のとおりである。①35年程前の子どもの造形教育の中でも絵画教育については、具体性に富んだ作品を授業や活動で制作していたが、現在ではあまり行われていない。②35年程前は、見ることの意味を教え、良く見ることを奨励して、描き方の手順まで言及して授業で行っていた。③現在使用されている教科書掲載の3年生の描く能力は、35年前の幼児向け参考図書の掲載作品と同程度かもしくは35年前の掲載作品のほうが、子どもたちは対象を良く見て具体的に描かれていた。④小学校3年生までの現在使用されている教科書に掲載されている実技演目は、小学校入学前の幼児期にはほぼすべての内容で既に経験した「造形的あそび」に属する。⑤現在の図画工作科のねらいの「あそぶ」というねらいが教科書全体に行き渡っている。

また、教員のアンケート結果からは幼児期の担任と児童期の担当者に造形的活動への困ったことや悩みに同一性を見ることができる。幼小接続に関してはそれぞれの教員が幼児期と児童期に何を行っているのかを知っているのかどうか調べることは出来なかった。幼児期も児童期も教員の多くが苦手意識をもって活動を行っていることも明らかである。

かである。

8. 造形教育の課題

幼児から小学生の造形教育について、時代とともに変化し現在の人間に必要なそして十分な教育内容になっていることと信じるのが自然である。ところが、少なくとも図画工作科におけるこの35年程の間に、造形的な活動の中でも絵画製作という教育内容や指導法に相当な転換があったことが作品から読み取ることができる。果たしてこの大きな転換は、人間教育に良い方向へと導くことに成功したのか。35年といえどもこの短い時間でこのような教育方法や成果が転換するものなのか、それが正しい道りであったのか裏付けとともに答えが知りたい。絵を描く能力の成長に関して、現在何故に幼児期から伸びない教育を受けるようになったのか、それとも具体性のある絵画製作を嫌う教育哲学によって現状があるのか研究をする必要がある。ハーバード・リードが「芸術による教育」で9・10歳児からは「視覚的な写実主義」に移行する、いわゆる記憶や創造により描く段階から、自然を見て描く段階へと移行すると50年以上前から提唱している内容は周知の定説として現代にも引き継がれているはずなのだが、造形教育の中でも描画教育と活動に関して言えば、その発達理論と現代の教育内容は、かみ合っていないようである。

今後は、幼児期から児童期のみならず中学校の美術科の教育内容にまで調査を進めていきたい。今まさに、児童期の図画工作科の活動内容は、幼児期に既に体験されているにも関わらず小学校でも行われているのだ。作品内容の分析では、今の小学生は、まるで幼稚園のような絵を描いていると分析されてしまっても過言ではないし事実である。

図画工作科の教育のねらいや内容については疑問を持つのと同時にそれが教育的視点で省察してみても子どもの成長や発達の中での知的部分には貢献される必要のない教科なのか、図画工作は「あそび」なのだから楽しければ良いのか、議論の余地が残る。

参考・引用文献

- ・「図画工作 3・4 上」(平成26年検定済) 日本児童美術研究会著作. 日本文教出版発行
- ・くまがいゆか (2012), 「製作・造形なんでも大百科」株式会社ユーキャン学び出版
- ・東山明 (2005), 「絵画・製作・造形あそび指導百科」ひかりのくに株式会社
- ・辻泰秀 (2014), 「幼児造形の研究」(保育内容「造形表現」) 萌文書林
- ・村田夕紀 (2011), 「3・4・5 歳児の楽しく絵を描く実践ライブ」ひかりのくに株式会社
- ・富山典子、岩本克子 (2005), 「保育に役立つ絵画あそび技法百科」ひかりのくに株式会社
- ・林建造、斎藤顕治、枝常弘 (1986), 「絵画製作・造形 実技編」東京書籍株式会社
- ・鈴木五郎 (1980), 「3・4 歳児の絵画製作」ひかりのくに株式会社
- ・鈴木五郎 (1986), 「5 歳児の絵画製作」ひかりのくに株式会社
- ・松井公男、郡司修三 (1978), 「ピアジェの幼児教育シリーズ 5 表現あそび」明治図書
- ・横英子 (2008), 「保育をひらく造形表現」萌文書林
- ・羽多悦子 (1993), 「感性と表現」学習研究社
- ・斉藤顕治、松村容子 (1980), 「ねんどあそび」サクラクレパス株式会社
- ・小学校学習指導要領解説「図画工作編」(平成20年8月) 日本文教出版株式会社発行
- ・幼稚園教育要領 (2008) 〈平成20年告示〉株式会社フレーベル館
- ・保育所保育指針 (2008) 〈平成20年告示〉株式会社フレーベル館
- ・栗山誠・武田信吾 (2006), 「幼児の造形活動と低学年図画工作科の現状比較」大阪総合保育大学紀要第1号, pp57-76,p58,
- ・丁子かおる (2012), 「保育現場における材料用具の経験についての調査研究—美術教育の幼小接続へ向けて—」美術科教育学会誌 (33), pp287-300
- ・三澤一美・増田毅・麻生敬子・田中俊一・宮島瑞子 (2006), 「所沢市における小学校教員の図画工作科指導意識」文教大学教育学部第40集, pp81-93
- ・隅敦 (2012), 「図画工作科の教科観の改善を念頭においた教員養成及び現職教育の展開に向けて」富山大学人間発達科学部紀要 7 (1), pp39-50
- ・「できたらいい・できたらいい図画工作な 3・4 上」(平成26年検定済) 日本造形教育研究会著作, 開隆堂出版株式会社発行
- ・「図画工作 3」(昭和54年文部省検定済) 日本児童美術研究会著作, 日本文教出版株式会社
- ・「しんずがこうさく 1」(昭和55年度用文部省検定済) 伊藤連ら 4 名著作, 光村図書出版株式会社
- ・Herbert Read (1965), 「Education Through Art」美術出版社

Analysis with the child's work which appeared on the authorized textbook by the Ministry of Education , and research on the effect by the change in education contents.

Matsushita, Akio*

本稿は、幼児期から小学校期における造形教育及び図画工作科における教育の内容や活動について、教員のアンケートや文部科学省認定済教科書に掲載された作品と活動内容から現状の分析を行った。その中でも特に絵画製作を焦点に、描画教育における不安材料を浮彫りにすることを目的としている。おおよそ35年前の昭和50年代の図画工作科教科書の内容と平成27年度使用の教科書内容を分析し、実際に子どもの描いた掲載作品等を比較して教育のねらいや目標についての検証を試みた。また教育内容をそれぞれの時間軸のみならず、年齢の軸を並列して達成された表現能力についても比較し分析をした。この数十年で大きな転換のあった図画教育について、子どもの作品から読み取り、その転換された教育内容の成果やその功罪について問題を提起している。

キーワード：絵画製作・描画教育・幼児・小学生・図画工作